

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	令和6年1月9日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyoSyCd=2490100076-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyoSyCd=2490100076-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年2月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

ふるさとのモットーである「笑顔・家族」。笑顔を絶やさず家族のように思い寄り添う。楽しく暮らしていただけるように。お風呂は温泉の湯で大浴場の為、広々と入浴が出来ます。現在はコロナ禍で屋外の行事は控えていますので屋内行事に力を入れています。災害・感染症対策には日頃から気を付けています。施設全体が檜をふんだんに使用し床暖房を設置しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

津市中央部を東西に横断する国道165号線に程近い、里山と住宅地が混在する地域に建つ事業所は同じ敷地内に別のグループホーム、また建物内の1階はデイサービスセンターが併設されており、地域の老人福祉の拠点施設のひとつと云える。事業所理念は「笑顔・家族」であり、高邁な言葉を並べるのではなく簡単明瞭にグループホーム運営の芯を表すものとなっている。そして職員はこれを良く理解し日々の支援に笑顔で取り組んでいる。コロナ禍も3年となり漸く収まる気配も見えだしているが、この間に出来なかった幾つかのことを生活プランに組み込んで積極的な更なる支援を目指す職員と事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に現場では「笑顔・家族」をモットーにしてホールにも掲示している。	事業所理念は「笑顔・家族」とシンプルに決めホールに掲示している。職員はこれを良く理解しており、常に自分から笑顔になれるよう互いに確認し合いながら日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況により現在は自治会との交流はありません。	地域の自治会に入会しており、コロナ禍前は夏祭りなどの行事に地域の人達を招待したりしていたが、今は感染症対策として全て中止している。しかし、今年春くらいから徐々に交流を再開すべく運営法人とも調整中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着運営推進会議の際などに参加し理解を得れるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度（年6回）自治会役員と管理者が出席し意見交換などしている。	同じ敷地内のグループホーム「ひまわり」と合同で年6回、偶数月に開催している。参加者は今のところ自治会関係者ばかりであるが、4月の役員代わりに合せ、利用者や行政関係者にも参加を働きかける予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	津市本庁（介護保険課・援護課など）に管理者が出向き必要時は意見交換や現状報告をしている。	行政との関係については管理者が市役所本庁に直接出向くことで良好に保たれており、介護保険課、援護課等に制度理解の指導を受けたり運営報告を行っている。最近ではインフルエンザ感染対策の指導をもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度身体拘束の研修・勉強会を実施し徐々に職員の理解も出来てきている。	前回のステップアップ項目であるが、これまでの職員による月1回の勉強会を継承して3カ月に1度の法定研修につなげており、おおむね目標は達成できたと考えている。現在は特に拘束に関する事例もなくこのまま適切な支援を続けていくこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会で話し合い虐待が起らないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用されている方・社会福祉協議会を利用されている方がおり制度について学習する機会があり活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居の前に話をし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター内にご意見箱は設置しているが管理者や職員に面会時などに直接話をしてきています。内容は連絡ノートを活用している。	エレベーターの中に意見箱を置いたが今のところ全く使われていない。家族からは電話や面会時に直接意見が出されることが多く、これを連絡ノートに記録して職員全員で共有し支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が週2回法人本社会議に出席し意見交換などしている。	月1度「ふるさと会議」と称して職員会議を行っており、カンファレンス、連絡事項の検討や必要に応じて各種研修も行われ多くの意見が出されている。更に日々の業務の中でも活発な意見交換がなされており、最近ではシフト検討会議の提案が出されたところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社会議などを通じて本社社長・部長に話をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ渦の状況で法人内での研修・勉強会は現在実施していません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が外部研修に少しずつ参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃からコミュニケーションを大事にし「気付き」を心掛けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり担当制を入れず職員皆が家族からの不安や要望を聞きながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提携医や隣接施設の看護師にも助言を得て管理者が判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現場独自の理念「笑顔・家族」をモットーに思いを共有しながら関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前に記入して頂く「事前調査票」を参考に入居後の生活に職員が役立っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響もあり外出は思うように出来ていないが馴染みの方が訪ねてこられたりした際は対応している。	コロナ禍が収まりつつあるのを受けて面会制限を緩和しているが、その中で家族が近所の友人を連れてきて貰ったことがあった。これが今後も関係継続の手段になればと考えており、より家族と連携して発展、支援していきたい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段はホールに集まり体操などのレクリエーションをしながら職員は見守りつつ状況に応じて支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて必要時には相談や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴を大事にししぐさや表情を見ながら職員同士が共有しないとイケない時は連絡ノートを活用している。	利用者の平均介護度は比較的低いが、意思の把握が難しい場合が多々ある。管理者を始め職員が常に心掛けていることは「普段の傾聴」であり、そこから生まれる信頼関係が何より利用者の思いの把握につながると考え支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査票の項目欄に生活歴もあり入居後参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前・午後とバイタルチェックし、体調変化時は酸素飽和度の測定も行い状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心になり作成している。毎月の定例会議で課題について議論している。家族への説明は職員皆が出来るように努めている。	介護計画は6カ月を基本としており、職員会議でモニタリングの内容を検討しながら方向づけていく。家族説明は必ず対面で行っており、その内容を管理者だけでなく職員誰でもが説明できる様にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート・受診状況ノート・介護記録を主に職員間で共有している。管理者不在時でも早期解決事案時は職員だけで決定している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望も出来る限り汲み取り、また新しい事にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員同士で話し合い、知恵や情報を出しながら楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の訪問診療を全入居者が利用している。診療日以外でも相談や支援してもらっている。隣接施設の看護師に必要時は相談している。	利用者全員が協力医に診てもらっており、訪問診療は月1回としているが急な往診も可能で、24時間対応は利用者、家族の大きな安心である。なお眼科等の他科診療には家族が対応しておりこれまで特に問題は出ていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設に看護師がいます。必要時には相談や助言してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が中心となり医療関係者・介護保険課・援護課などと情報交換し支援してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	設備や体制が整っていない事もあり入居前の説明時は困難である旨は家族には伝えている。しかし家族の意向で入居後に終末期ケアもしたことはあります。その際は提携医や職員とも話し合いをし管理者が判断しました。	原則的に看取り介護は行っていないが、利用者から強い希望があった場合は協力医と相談のうえ、体制的に可能であれば実施することとしている。昨年は無かったが、それ以前では2件の実績があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用実演勉強会をしたり、消防ホームページを活用し初期対応が迅速に出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練をしている。地域運営推進会議時にも協力をお願いしている。	年2回、1階のデイサービスセンターと合同で消防訓練を実施している。また備蓄等も充分で体制としては整っている。自治会とは、事業所を住民の避難所として使うことで約束ができており協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室にトイレがあり一人ひとりに合わせて対応している。言葉で傷つけないように気を付けている。	トイレが各居室に設置されている為、他の事業所にあるような排泄にまつわる問題は全く見られない。ホールでの呼び掛けや居室に入るときの声掛けなどには充分過ぎるほど配慮し、職員同志でも気を付け合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う気持ちが大事であると認識しており出来る限り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で気を付けながら一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされたり毛糸の帽子を被ったりその日その日の想いに合わせて支援している（見守っている）。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から献立表と食材は配達してもらっている。調理は職員がしている。盛り付けや片付けは手伝ってもらう時もある。	食材と献立は専門業者から調達しており、調理は毎食職員が行っている。ホール兼食堂は一般家庭程度の広さであるが、その分利用者間の距離が近く全員が介助なく食べており、さながら家族の食事風景である。またリクエストに応じて季節の行事食を作るなど食事を楽しむ工夫・支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者委託の為あらかじめカロリー計算・栄養のバランスはしっかりしている。体調など考慮しお粥に変更したり刻みにしたりし支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に見守り口腔ケアをしている。毎週日曜日にポリデント洗浄している。必要時は歯科訪問診療の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせ誘導時間を設けたり失禁が少しでも減らせるよう支援している。	利用者全員がトイレで排泄できており、全員が紙パンツで過している。尿意、便意の示せる利用者はその都度、それ以外は排泄チェック表に基づいてトイレ誘導しており、自立とまではいかないが排泄に関しては概ね問題なく支援できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には乳酸飲料を飲んだりレクリエーションの際にお口の体操等をして取り組んでいる。医師の判断で便秘薬を服用している方も見えるが改善し中止になった方もみえる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の湯を汲んできている。大浴場でゆっくりと入浴できる為楽しんでもらっている。寒い時期は体調に考慮し支援もしている。	入浴は週2～3回で設備的にはデイサービスセンターの大浴場を利用しており、一度に3名程が入ることができる。また湯そのものは榊原温泉から運んできており、大きな湯船と相まっての温泉気分は利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼休憩の時間を設けており昼食後に昼寝をされる方が多くいる。有意義に時間を作れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表や受診ノート・救急時対応表を確認し病名や薬名を出来る限り理解し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ラジオ・リハビリ体操、ボール運動などのレクリエーションや洗濯たみなど一人ひとりに合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダに出て外の景色を眺めたりコロナの影響で皆で出掛ける行事は現在行えずにいる。通院の際に家族と一緒に出掛けられることはある。	コロナ禍以降これまで、桜見など特別な外出は時折行ってきたが、散歩や近隣へのドライブなど日常的な外出は全くできていない。今後、コロナの状況を見ながらではあるが、外出を組み込んだ生活プランを検討することとしており、とりあえず外で陽に当たりながらお茶会などを考えている。	そろそろコロナも収まってきて、これから良い季節になってくる。近隣との触れ合いやこれまでの生活の中での外出は利用者が最も望むところであり、事業所として積極的な計画のもと日常的な外出が実現される様期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所でしている。現在は外出がないので使用はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ふるさと便りを作っている。行事の写真など見てもらったりポケットアルバムを一人ひとりに作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	檜の香りがする空間で全室含め全体が床暖房設置している。掲示板には行事の写真などが貼ってあり四季を感じられるよう工夫をしている。	ホール、廊下とも木質のしっかりした造りで経年による木の温もりと味わいが居心地の良さをもの語っている。また全館床暖房は冬季に過ごしやすく、年間を通じて快適な生活が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭く感じる空間ではあるが職員が工夫しながら椅子の位置を考えたりし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房が設置しており冬場は喜ばれている。若い頃に使用していた着物を持参している方も見えそれぞれに合わせた支援をしている。	居室は約7畳と広めで、床暖房に加え全室にトイレと洗面台が完備されている。昼中といえど入浴の後のお昼寝など居室の利用は多く、テレビやタンス等、小ぶりの家具を持ち込んで自室として上手く利用している姿が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が色んな工夫をし狭く感じる空間を広く思ってもらえるよう支援している。		